

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第301回委員会議事録（案）

1. 日 時 平成 24 年 4 月 13 日（金） 9:30~17:00
2. 場 所 東京大学工学部 5 号館（東京都文京区本郷 7-3-1）56 号教室
3. 出席者 38 名（順不同・敬称略）

委 員 長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、児玉昌也（産総研）

幹 事： 稲垣道夫（北大）、安田榮一（東工大）、遠藤守信（信州大）、
吉田明（東京都市大）、尾崎純一（群馬大）、金子邦範（炭素協会）、
小林知洋（理研）

委 員： 藤本宏之（大阪ガス）、園部直弘（クレハ／代理：秋田恭弘）、蛭谷玄
太（コバレントマテリアル）、岩下哲雄（産総研）、塩山洋（産総研）、
羽鳥浩章（産総研）、川野陽一（新日鐵化学／代理：柴田和哉）、山
下良（新日本テクノカーボン／代理：菅原利夫）、高波浩（タンケン
シールセーコウ／代理：木村直文）、福田敏昭（東海カーボン／代理：
大宮裕美）、阿久沢昇（東京高専）、鏑木裕（東京都市大）、近藤純子
（東洋炭素／代理：森下隆弘）、戸田晋次郎（日本電極）、向井紳（北
大）、平原聡（三菱化学）

委 員 外： 押田京一（長野高専）、西澤節（神戸製鋼）、菱山幸宥（東京都市大）、
山田能生（産総研）、

同伴者他： 清原健司（産総研）、吉澤徳子（産総研）、菊池圭祐（静岡県工業技術研
究所）、鄭龍采（信州大）、山下理恵（東大）、石山新太郎（原子力機構）、
入澤寿平（産総研）、曾根田靖（産総研）

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

以下を修正して、第 300 回議事録（案）を承認した。

4.3 (3) その他 協力関係さらに → 協力関係をさらに

4.2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動

・退会

元慶應義塾大学 大橋良子氏 (委員外)

横浜国立大学 目黒竹司氏 (委員外)

・異動

炭素協会 金子邦範委員 (4月より幹事委嘱)

東北大学 京谷隆委員 (同上)

(b) 第300回記念シンポジウムについて

- ・収支決算の報告を行った

(c) 第3回日独合同セミナーについて

尾崎幹事より以下の説明があった。

- ・2012/6/25 (月) ~26 (火) に Berlin で開催。
- ・日本側参加者 15 名 (講演 11 件)
- ・Plenary lecture は向井委員 (北大) と伊藤様 (日産自動車)
- ・学振協力会補助 (40 万円) に採択

(d) 量子ビーム融合化利用研究について

- ・科研費新学術領域研究に2回目の応募中
- ・除染研究、ガン治療研究の取扱い開始

(e) 第38回産学連携委員会委員長会議について

- ・日時：平成24年3月27日(月) 14:00~16:00 東京グリーンパレス
- ・産学連携事業の活性化を目的とし、支援策見直しの議論。
- ・多額の繰越金について、1/2を新規事業に繰り入れる案、オーバーヘッド(15%)を増加させる案が提案されるも、委員長会議としては基本的に反対。
- ・繰越金は剰余金ではなく、事業の準備金として別会計とする。
- ・委員会設置基準のうち「600万円を集める」という条件を見直す。
- ・117委員会における重要検討事項としては、設置趣旨の再確認(特に「学界のシーズと産業界のニーズのマッチングを図り、将来実用可能な課題等についての調査研

究支援及び実用化への誘導」の具体化)。

- ・117委員会については2016年9月に継続に関する審査が行われ、次期設置期間は2016年10月から2021年9月となる。

(f) 次回以降の予定について

H24 第2回 (302回, CAB) 7月13日 (金) 東京都市大 (会場担当: 吉田幹事)

H24 第3回 (303回, ABC) 9月14日 (金) 東工大 (会場担当: 榎幹事)

H24 第4回 (304回, BCDA) 11月15日 (木) 16日 (金) 産総研 (会場担当: 児玉幹事) (15日は特別講演会)

(2) 分科会報告

(117-301-B-1) 水溶性カーボンナノチューブと各種イオン性発光体との相互作用
○塩山洋 (産総研)

(117-301-B-2) 水平あるいは垂直配向した透過性黒鉛薄膜の調製
○児玉昌也, 曾根田靖, 吉澤徳子 山下順也
(産総研・エネルギー技術研究部門)

(117-301-C-1) 福島県における汚染土壌の再生利用に関する研究
○石山新太郎 (日本原子力研究開発機構)

(117-301-C-2)* カーボンナノチューブの賦形
○稲垣道夫 (北大)

(117-301-A-1) ラマン2次スペクトルと炭素材料のキャラクタリゼーション、高弾性、高強度、高熱伝導炭素繊維を例に
○菱山幸宥¹, 鏑木裕², 浜村尚樹², 吉田明³
(東京都市大名誉教授¹, 東京都市大工², 東京都市大総合研究所³)

(117-301-A-2) Carbon nanotube & graphene for polymer nanocomposites and application
○Yong Chae Jung¹, Hiroyuki Muramatsu², Takuya Hayashi^{2,3}, Yoong Ahm Kim^{2,3}, Morinobu Endo^{1,3}
(Research Center for Exotic Nanocarbons, JST¹, Faculty of Engineering, Shinshu University², Institute of Carbon Science and Technology, Shinshu University³)

*117-301-C-2 は配布資料なし

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口主査（運営委員長）より以下の報告があった。

- (a) 現在会員数（10/18 現在） 正会員 740 名 学生会員 212 名 合計 952 名
賛助会員 50 社 55 口
- (b) 1 月セミナー 日本化学会館（2012 年 1 月 20 日(金)）
「次世代リチウム二次電池のための炭素材料の現状と展望」
61 名参加
- (c) 先端科学技術講習会 京都パルスプラザ（2012 年 7 月 6 日（金））
「リチウムイオン電池用黒鉛負極」
- (d) 今後のセミナー・講習会企画
出来るだけ早めにセミナー・講習会の内容を考え、賛助会員の年間契約も可能となるよう検討中。
- (e) 「炭素」誌広告について
広告掲載企業を募集中
- (f) 第 38 回炭素材料学会年会（名古屋）報告
事前申込：241 名（一般 128 名、学生 113 名）、当日申込：139 名（一般 120 名、学生 19 名）合計：380 名（一般 248 名、学生 132 名）、うち国外参加者：12 名、国内参加者：368 名と盛況であった。
- (g) 第 39 回炭素材料学会年会（長野）準備状況
2012 年 11 月 28 日（水）～30 日（金）に長野市生涯学習センター（長野駅と善光寺の間）で実施する。今年はナノカーボンの特別セッションを設ける。特別講演は 2 件を予定。
- (h) 第 40 回炭素材料学会年会（京都）予定
第 40 回の年会開催場所は京都で検討中。
- (i) 第 50 回夏期セミナー
8 月下旬、1 泊 2 日、幕張で開催予定。また、今後の運営について、運営委員会とも相談して進める。
- (j) Carbon2017 あるいは Carbon2020 の日本開催について
前回の AACG でオーストラリアが 2017 年の Carbon Conference の開催国として立候補をした。次回のアジア会議で京谷会長が 2017 年あるいは 2020 年の Carbon

Conference 開催の立候補をする予定。準備委員会を立ち上げる。

- (k) 平成 24 年度文部科学大臣表彰科学技術賞受賞
群馬大学・尾崎純一教授が受賞された。
- (l) 平成 24 年度日本学術振興会賞受賞候補者の推薦
当学会会員 1 名を推薦する予定。

炭素誌関係：曾根田氏（編集副委員長）より以下の報告があった。

- (m) 252 号は 4 月 1 日に発行済み
- (n) 1 月より編集部が国際文献印刷社に移行済
- (o) 11 月に発行される 255 号は特集「炭素材料のモルフォロジー」
- (p) 256 号では小特集「電気化学キャパシタに関わる炭素材料」
- (q) 5 月 1 日より J-stage3 へ移行

(2) 国際会議関係、Carbon 誌関係

特になし

(以上)